

ヤングケアラー実態調査（民生・児童委員対象）集計結果

【福祉部生活福祉課 令和4年6月～7月実施】

I 調査回答状況

	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
調査対象者数	40人	540人	580人
回答者数	31人	426人	457人
回答率	77.5%	78.9%	78.8%

※主任児童委員…民生・児童委員のうち、児童問題を専門に担当する者。

※民生・児童委員…本調査では、主任児童委員以外の民生・児童委員とする。

※協力員…民生・児童委員の活動をサポートする者。

II 集計結果

1 回答者に関する質問項目（その1）

(1) 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。【問2】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
聞いたことがあり、内容も知っている	31 (100.0%)	323 (75.8%)	354 (77.5%)
聞いたことはあるが、よく知らない	0 (0.0%)	88 (20.7%)	88 (19.3%)
聞いたことはない	0 (0.0%)	15 (3.5%)	15 (3.3%)

(2) ご担当の地域で、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握していますか。【問3】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
把握している	18 (58.1%)	2 (0.5%)	20 (4.4%)
把握していない	13 (41.9%)	424 (99.5%)	437 (95.6%)

(3) (上記2で「把握していない」と回答した方のみ) 把握していない主な理由として挙げられるものを1つ選んでください。【問4】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
家庭内のことでの表に出にくく、把握が難しいため	9 (69.2%)	270 (63.7%)	279 (63.8%)
「ヤングケアラー」への認識が薄く、積極的に把握してこなかつたため	0 (0.0%)	59 (13.9%)	59 (13.5%)
生活困窮等に比べて緊急度が高くなく、実態把握が後回しになるため	2 (15.4%)	5 (1.2%)	7 (1.6%)
現在の地域を担当してから間もないため	0 (0.0%)	30 (7.1%)	30 (6.9%)
その他 (※)	2 (15.4%)	35 (8.3%)	37 (8.5%)
わからない	0 (0.0%)	25 (5.9%)	25 (5.7%)

※「その他」の内容

- ・高齢者世帯や単身世帯の対応が基本となっており、子どものいる世帯との関わりが少ないとため
- ・コロナ禍で訪問を控えており、情報収集が難しいため
- ・情報として入ってこないため 等

2 ヤングケアラーに関する質問項目

(1) 該当者の年代を教えてください。学生は分かる範囲で学年も記載してください。【問7】

回答内容		男性	女性	不明	合計
小学校入学前		0	0	0	0 (0.0%)
小学生		4	4	2	10 (30.3%)
1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生 不明	1年生	0	0	0	0 (0.0%)
	2年生	0	1	0	1 (3.0%)
	3年生	0	0	1	1 (3.0%)
	4年生	2	0	0	2 (6.1%)
	5年生	1	1	0	2 (6.1%)
	6年生	0	2	1	3 (9.1%)
	不明	1	0	0	1 (3.0%)
中学生		6	7	0	13 (39.4%)
1年生 2年生 3年生 不明	1年生	0	3	0	3 (9.1%)
	2年生	3	2	0	5 (15.2%)
	3年生	1	1	0	2 (6.1%)
	不明	2	1	0	3 (9.1%)
高校生		2	3	0	5 (15.2%)
1年生 2年生 3年生 不明	1年生	0	2	0	2 (6.1%)
	2年生	0	0	0	0 (0.0%)
	3年生	2	0	0	2 (6.1%)
	不明	0	1	0	1 (3.0%)
不明		0	0	5	5 (15.2%)
合 計		12 (36.4%)	14 (42.4%)	7 (21.2%)	33 —

(2) 該当者の同居家族を教えてください。【問8】

回答内容		男性	女性	不明	合計
両親同居の世帯		6	7	4	17 (45.9%)
両親のみ 両親+きょうだい 両親+祖父母 両親+祖父母+きょうだい その他	両親のみ	0	1	0	1 (2.7%)
	両親+きょうだい	5	6	4	15 (40.5%)
	両親+祖父母	1	0	0	1 (2.7%)
	両親+祖父母+きょうだい	0	0	0	0 (0.0%)
	その他	0	0	0	0 (0.0%)
ひとり親の世帯		5	5	3	13 (35.1%)
ひとり親のみ ひとり親+きょうだい ひとり親+祖父母 ひとり親+祖父母+きょうだい その他	ひとり親のみ	0	2	1	3 (8.1%)
	ひとり親+きょうだい	4	2	2	8 (21.6%)
	ひとり親+祖父母	1	0	0	1 (2.7%)
	ひとり親+祖父母+きょうだい	0	0	0	0 (0.0%)
	その他	0	1	0	1 (2.7%)
その他		3	2	2	7 (18.9%)
祖父母のみ きょうだいのみ 祖父母+きょうだい その他	祖父母のみ	0	1	0	1 (2.7%)
	きょうだいのみ	1	1	0	2 (5.4%)
	祖父母+きょうだい	0	0	0	0 (0.0%)
	その他	2	0	2	4 (10.8%)
不明		0	0	0	0 (0.0%)
合 計		14	14	9	37 —

(3) 該当者（ヤングケアラー）が家族をケアしていることを把握したきっかけを教えてください。
【問9】

回答内容	男性	女性	不明	合計
家庭と関わった様子から	2	0	2	4 (10.8%)
近隣住民からの情報提供	0	0	0	0 (0.0%)
学校からの情報提供	5	4	3	12 (32.4%)
福祉関係機関からの情報提供 (ケアマネ、ヘルパー等)	2	7	2	11 (29.7%)
該当者の親戚からの情報提供	0	0	0	0 (0.0%)
該当者本人からの相談	0	1	0	1 (2.7%)
その他（※）	5	2	2	9 (24.3%)
合 計	14	14	9	37 —

※「その他」の内容

- ・子ども家庭支援センター（7件）
- ・学校教育支援センター（スクールソーシャルワーカー）（2件）

(4) 該当者がケアしている相手を教えてください。兄・姉・弟・妹の場合は、分かれる範囲でケアを受けている人数も記入してください。【問10】

回答内容	男性	女性	不明	合計
父親	1	0	0	1 (2.8%)
母親	4	4	5	13 (36.1%)
祖父	1	0	0	1 (2.8%)
祖母	1	1	0	2 (5.6%)
兄・姉	1	0	0	1 (2.8%)
人数	1人	0	0	0 (0.0%)
	2人	0	0	0 (0.0%)
	3人	0	0	0 (0.0%)
	4人以上	0	0	0 (0.0%)
	不明	1	0	1 (2.8%)
弟・妹	7	8	2	17 (47.2%)
人数	1人	3	0	7 (19.4%)
	2人	0	3	5 (13.9%)
	3人	0	0	0 (0.0%)
	4人以上	0	1	1 (2.8%)
	不明	4	0	4 (11.1%)
その他（同居していない異父きょうだい）	0	1	0	1 (2.8%)
不明	0	0	0	0 (0.0%)
合 計	15	14	7	36 —

(5) 該当者がケアしている相手の状況を教えてください。【問11】

回答内容	男性	女性	不明	合計
高齢（65歳以上）	1	1	0	2 (4.8%)
幼い	7	9	2	18 (42.9%)
介護が必要	0	0	1	1 (2.4%)
認知症	0	0	0	0 (0.0%)
身体障害	1	1	2	4 (9.5%)
知的障害	0	1	1	2 (4.8%)
精神疾患（うつ病等）	2	1	3	6 (14.3%)
依存症（アルコール、ギャンブル等）	1	1	0	2 (4.8%)
精神疾患以外の病気	1	1	0	2 (4.8%)
日本語を第一言語としない	1	0	1	2 (4.8%)
その他（不登校）	0	1	0	1 (2.4%)
不明	1	1	0	2 (4.8%)
合 計	15	17	10	42 —

(6) 該当者が行っているケアの内容を教えてください。【問12】

回答内容	男性	女性	不明	合計
家事（炊事、洗濯、掃除等）	2	7	3	12 (26.1%)
身体的な介護（入浴、トイレ等）	2	2	0	4 (8.7%)
きょうだいの世話や保育所等への送迎	5	4	3	12 (26.1%)
買い物や散歩の付添い	0	0	1	1 (2.2%)
通院の付添い	0	0	1	1 (2.2%)
感情面の支援（愚痴を聞く、話し相手になる等）	1	1	1	3 (6.5%)
見守り	2	2	2	6 (13.0%)
通訳（日本語、手話等）	1	0	1	2 (4.3%)
金銭の管理	0	0	0	0 (0.0%)
薬の管理	0	0	1	1 (2.2%)
その他	0	0	0	0 (0.0%)
不明	2	1	1	4 (8.7%)
合 計	15	17	14	46 —

(7) 該当者がいつからケアを始めたかを教えてください。【問13】

回答内容	男性	女性	不明	合計
小学校入学前	0	0	0	0 (0.0%)
小学生	7	10	2	19 (57.6%)
1年生	0	1	1	2 (6.1%)
	0	0	0	0 (0.0%)
	1	0	0	1 (3.0%)
	1	0	0	1 (3.0%)
	2	0	1	3 (9.1%)
	1	1	0	2 (6.1%)
	2	8	0	10 (30.3%)
中学生	1	1	0	2 (6.1%)
1年生	0	0	0	0 (0.0%)
	0	0	0	0 (0.0%)
	0	0	0	0 (0.0%)
	1	1	0	2 (6.1%)
高校生	0	0	0	0 (0.0%)
1年生	0	0	0	0 (0.0%)
	0	0	0	0 (0.0%)
	0	0	0	0 (0.0%)
	0	0	0	0 (0.0%)
その他	0	0	0	0 (0.0%)
不明	4	3	5	12 (36.4%)
合 計	12	14	7	33 —

(8) 該当者以外で、ケアに協力している人を教えてください。【問14】

回答内容	男性	女性	不明	合計
父親	2	0	0	2 (6.1%)
母親	2	2	0	4 (12.1%)
祖父	0	0	0	0 (0.0%)
祖母	1	0	0	1 (3.0%)
兄・姉	0	2	3	5 (15.2%)
弟・妹	1	1	0	2 (6.1%)
親戚	0	1	0	1 (3.0%)
福祉サービス（ヘルパー等）	1	4	4	9 (27.3%)
その他（子ども家庭支援センター）	0	1	0	1 (3.0%)
いない	2	1	0	3 (9.1%)
不明	3	2	0	5 (15.2%)
合 計	12	14	7	33 —

(9) 該当者が、ケアに関する悩みを相談している（と思われる）相手を教えてください。【問15】

回答内容	男性	女性	不明	合計
父親	1	0	0	1 (2.6%)
母親	0	0	0	0 (0.0%)
祖父	0	0	0	0 (0.0%)
祖母	0	0	0	0 (0.0%)
兄・姉	0	0	0	0 (0.0%)
弟・妹	0	0	0	0 (0.0%)
親戚	0	0	0	0 (0.0%)
友人	1	2	0	3 (7.7%)
近所の人	1	0	0	1 (2.6%)
学校（担任、スクールカウンセラー等）	2	3	0	5 (12.8%)
ケアされている人の担当医	0	0	0	0 (0.0%)
ケアされている人のケアマネ等	0	2	0	2 (5.1%)
行政機関等の相談窓口	2	5	0	7 (17.9%)
その他（スクールソーシャルワーカー）	1	0	0	1 (2.6%)
いない	4	2	6	12 (30.8%)
不明	2	4	1	7 (17.9%)
合計	14	18	7	39 -

(10) ケアをしていることで、本人にどのような影響が出ていると思いますか。【問16】

回答内容	男性	女性	不明	合計
学校を休みがち	5	3	2	10 (17.2%)
遅刻が多い	1	1	4	6 (10.3%)
勉強の時間が取れない	3	0	3	6 (10.3%)
部活ができない	1	1	0	2 (3.4%)
遊ぶ時間がない	2	1	1	4 (6.9%)
アルバイトができない	1	0	0	1 (1.7%)
進路を考えるゆとりがない	2	0	0	2 (3.4%)
進学できない	1	0	0	1 (1.7%)
精神的に不安定	1	6	2	9 (15.5%)
睡眠不足・生活リズムの乱れ	5	2	1	8 (13.8%)
その他（食事がとれていない）	1	0	1	2 (3.4%)
不明	2	5	0	7 (12.1%)
合計	25	19	14	58 -

(11) 該当者またはその家庭に民生・児童委員として行っている支援がありましたら教えてください。【問17】

回答内容	男性	女性	不明	合計
学校への情報提供	7	5	5	17 (30.4%)
区の相談機関へのつなぎ	2	4	5	11 (19.6%)
家庭の見守り	5	9	5	19 (33.9%)
その他 (※)	3	1	1	5 (8.9%)
特になし	1	3	0	4 (7.1%)
合 計	18	22	16	56 —

※「その他」の内容

- ・スクールソーシャルワーカーと情報共有（2件）
- ・子ども家庭支援センターと情報共有（1件）
- ・学校や子ども家庭支援センターを通じた状況調査（1件）
- ・本人の話を聞く（1件）

(12) 問17で「特になし」と回答された方にお聞きします。支援を行っていない（行うことができない）理由を教えてください。【問18】

回答内容	男性	女性	不明	合計
本人や家族に自覚がない	1	0	0	1 (16.7%)
支援が必要な状況ではない	0	0	0	0 (0.0%)
本人や家族が支援を拒否した	1	0	0	1 (16.7%)
家庭内のことでの関わりにくい	1	0	0	1 (16.7%)
支援の方法が分からぬ	0	0	0	0 (0.0%)
その他 (※)	0	3	0	3 (50.0%)
合 計	3	3	0	6 —

※「その他」の内容

- ・家の場所を聞いていたため（2件）
- ・学校と関係機関が対応しているため（1件）

3 回答者に関する質問項目（その2）

(1) 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、支援する際に課題として考えられることは何ですか。【問19】

回答内容	主任児童委員	民生・児童委員 および協力員	合計
ヤングケアラー本人がケアを当たり前と思うなどして、支援を求めない	24 (25.0%)	270 (18.8%)	294 (19.2%)
家族がヤングケアラーへの支援に同意しない	13 (13.5%)	152 (10.6%)	165 (10.8%)
家族や周囲の大人にヤングケアラーという認識がない	26 (27.1%)	310 (21.6%)	336 (22.0%)
福祉・教育機関のヤングケアラーに関する認識や知識が不足している	7 (7.3%)	142 (9.9%)	149 (9.7%)
学校との情報共有が不十分	8 (8.3%)	221 (15.4%)	229 (15.0%)
福祉分野や教育分野等、複数の分野にまたがる支援のコーディネートができる人材や機関がない	8 (8.3%)	161 (11.2%)	169 (11.1%)
既存サービスに活用できるものもなく、具体的な支援策を検討しにくい	7 (7.3%)	152 (10.6%)	159 (10.4%)
その他（※）	3 (3.1%)	25 (1.7%)	28 (1.8%)
合 計	96 —	1,433 —	1,529 —

*「その他」の内容

- ・情報の収集が難しい
- ・どのような支援が必要か分からない
- ・本人の意思を聞き出すのが難しい、時間を要する
- ・日中はヘルパー等が対応できるが、夜間はヤングケアラーに頼らざるを得ない 等

(2) 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような支援が特に必要だと思いますか。
【問20】

回答内容		主任児童委員	民生・児童委員および協力員	合計
ヤングケアラー専用の相談窓口		23 (24.5%)	340 (28.2%)	363 (27.9%)
(複数回答あり段)	窓口	3 (13.0%)	49 (14.4%)	52 (14.3%)
	電話	2 (8.7%)	85 (25.0%)	87 (24.0%)
	メール	4 (17.4%)	57 (16.8%)	61 (16.8%)
	SNS (LINE等)	13 (56.5%)	118 (34.7%)	131 (36.1%)
	選択なし	1 (4.3%)	31 (9.1%)	32 (8.8%)
ヤングケアラー同士が交流できる場		6 (6.4%)	83 (6.9%)	89 (6.8%)
(複数回答あり法)	対面での交流	1 (16.7%)	24 (28.9%)	25 (28.1%)
	オンラインでの交流	2 (33.3%)	13 (15.7%)	15 (16.9%)
	SNSでの交流	1 (16.7%)	36 (43.4%)	37 (41.6%)
	選択なし	2 (33.3%)	10 (12.0%)	12 (13.5%)
ヤングケアラーに向けた情報の提供		15 (16.0%)	174 (14.4%)	189 (14.5%)
区民へのヤングケアラーに関する周知・啓発		9 (9.6%)	88 (7.3%)	97 (7.5%)
支援関係機関・関係者へのヤングケアラーに関する研修の実施		7 (7.4%)	61 (5.1%)	68 (5.2%)
本人への学習支援		8 (8.5%)	99 (8.2%)	107 (8.2%)
本人への就労支援		2 (2.1%)	48 (4.0%)	50 (3.8%)
本人や家族を支援する関係機関の連携体制づくり		19 (20.2%)	247 (20.5%)	266 (20.5%)
ヤングケアラーを支援する団体への運営支援		3 (3.2%)	56 (4.6%)	59 (4.5%)
その他 (※)		2 (2.1%)	10 (0.8%)	12 (0.9%)
合 計		94 —	1,206 —	1,300 —

※「その他」の内容

- ・本人の学習費用、生活費、家族の介護サービス利用費等の金銭的支援
- ・ケアが必要な人への必要な介護サービス等の提供 等

- (3) ヤングケアラーの状況や支援に関して、日頃感じていることや今後望むことなどがありましたら、ご記入ください。（自由意見）【問21】※重複意見等があるため、抜粋。

区分	内容
周知・啓発	以前、精神疾患の母や妹の世話のため、不登校となった児童がいた。当時はヤングケアラーという認識がなかったため、関わり方が消極的だった。学校・民生児童委員・近隣にヤングケアラーについてよく周知すべきだと思う。
	この問題は「我が子・我が親の面倒を見るのは当たり前」と今まで生きてきた多数の人々は、あまり重要課題にしてこなかったと思う。でも、近年ヤングケアラーが多く取り上げられ、救われる子どもが一人でも多く自由に自分らしく成長していくことを心より望んでいる。
	親が子どもを手放さない事例を知っている。ヤングケアラーは10代から40代まで続く。何とか親を教育しなくてはいけない。親子に期待する政策が間違っている。
	中高生に向けては、困ったときの相談窓口などを教えるリーフレットが、一般市民に対してはヤングケアラーの理解・協力をお願いできるようなリーフレットが必要と思われる。
	日本人は家庭の事情を大っぴらにするのを厭う気質がある。他者に支援を求めるために抵抗するかも知れない。今の子は真面目すぎるくらいなので自分でやろうとしてしまいそう。区のHPやポスターで認識を深めていくのは良いのではないか。気軽に相談できるような組織ができたり、支援の仕組みが分かりやすくなったりすると良い。
	本人・家族はヤングケアラーと思っている可能性が低いかもしれないが、もっと周知は必要と思う。サポートが必要なヤングケアラーの子どもを把握するためにはもっとアンテナを張らなければと思う。
ヤングケアラーの発見・把握	ヤングケアラーについてよく知らないので、研修を実施してほしい。
	子どもが他に支援を求めるのは考えにくい。何らかの異変に気付いた周辺の方が事情を聴いて地域の相談窓口と情報をやり取りしてよりよい方向へ進めるべきと思う。
	ヤングケアラーと思われる子供を把握することは難しい。親のケアが大切だが、家庭内に入ることを嫌がる方が多い。学校などで気付いたことがあれば主任児童委員に連絡をほしい。
	民生委員はヤングケアラーの状況を把握しにくい。学校との連携を密にしている主任児童委員から情報を得て、他の民生委員、協力員がその情報を共有して見守りや支援ができるようになると、少しは助けられるのではないかと思う。
	本人がヤングケアラーである認識がなければ表面化しない場合が多い。学校でヤングケアラーについて学ぶ時間があれば自分が当てはまるのかも？と気づいて担任、養護教諭などに相談するきっかけになるのではないか。また、学校側にもヤングケアラーについて相談があった場合の対応などのマニュアルがあれば良いと思う。
	主任児童委員ではないので学校との結びつきが少なく、地域のヤングケアラーに関する情報が十分あるとは思えない。高齢者の人数は把握しているが、学童の人数は把握していない。ヤングケアラーの把握には、まず地域学童の人数把握から始めるようだと思う。
相談先	助けを求められていることに気付けずにいるのではないかと不安になることがある。情報があれば適切に迅速に共有させていただきたい。
	ヤングケアラーには周囲の助力が絶対に必要と思うが、近所とのつながりが少ない東京だからか情報が入らない。ヤングケアラーを知った場合は、まず区につなげたいと思う。
	ケアの対象が障害者の場合、お世話をしている担当者が一番発見しやすいのではないか。生活保護世帯の場合はケースワーカーが発見しやすいのではないか。民生委員としては、近隣を見廻りをしながら情報収集に努める。また、主任児童委員や学校からの情報があれば訪問して支援したい。近隣の支援施設の知識も収集しておきたい。
	ヤングケアラー自体やそうせざるをえない状況自体が悪いことではないと思う。その状況を苦しいと思うり、ほかの児童・生徒と同じように活動できないことを悩んだりする事を、周りの大人に発言、発信できる環境作りをしてあげたい。
	子どもたちに家の仕事として手伝ってもらうことは良いと思うが、学習もできず、友人も作れずというのは負担が大きすぎる。何か手伝える支援の手が差し伸べられると良い。そのためには、相談できる相手（親戚等）が身近にいると良い。
	ヤングケアラーは、話を聞いてくれる人が一人でもいたら救われると思う。無理やり入り込むではなく気持ちを素直に話したり、行動できたりすることができるよう、上手にケアしていくことが大切と思う。

区分	内容
支援体制・連携体制づくり	以前学校訪問の際、家族の世話をしていて不登校気味というケースがあった。関係者によるケース会議でケアしている様子だったが、教育だけではなく生活全般（特に生活費）に関わり、課題が多岐に渡ることを思い知らされた。個々の相談に乗るためには専用窓口の存在は欠かせない。
	学校の情報が共有できるように新しい組織の構築を考えていただきたい。
	民生・児童委員以上に、総合福祉事務所、支援センター、社会福祉協議会、PTA、教育委員会等がもっと頑張ってほしい。
	中学校や高校との連携をもっと密にする。学校側が本人に提案できる支援システムを作ることが必要。
	学校や近隣からの情報提供を促すことが大切。「気づき」から早期に対応できるようになり、子どもの負担を少しでも軽減できる。対象者と接点ができたら、関係機関と連携できるようチェックする部署が必要。
	既存の制度を弾力的に適用できるようにするための条例等の改正が必要。行政担当者と民生委員がペアとなり制度を利用しながら支援する仕組みづくりが必要（保護観察や成年後見制度等が参考になるかも）。
	家庭の養育力不足や孤立など問題の根は深いと思われる。当該者をヤングケアラーから解放するためには多方から支援が必要であり、支援のための関係を築くことも短期間でできることではない。まず、地域の見守りの目を増やし、支援に対するハードルを低くしなくてはならない。
	私たちが簡単にあの子はヤングケアラーだと判断してしまうことは非常に危険であり難しいことだと思う。家族関係が崩壊しないように、SOSを出している子どもがいる場合、本人だけでなく家族も同時に救う支援を提供できるシステムを作り上げた上で支援の手を差し伸べてあげてほしい。
	ヤングケアラーを自分が支援するとして、どこにどの流れで支援に繋げるのか漠然としている。具体的に支援団体や関係機関など支援の手引きなどあるとよい。
	病気の父の面倒を見て遅刻・不登校気味の小学生の登校支援について家族と話したが、うまく進まなかった。この時は家庭環境が全く分からなかった。横のつながりの情報提供があつたら良かったと思っている。
家族支援	小学校で、親が体調不良から子どもが不登校になった家庭に対して、校長先生が少しずつ対応しよくなっているケースがある。学校だけではなく多くの人が関わることが大切なのではないかと思う。
	中学校の放課後学習支援でボランティアをしている方が関わった生徒にヤングケアラーと思われる子どもがいた。その生徒はボランティアと教師が相談にのり、子ども家庭支援センターにも連絡した。年を経て自立できたとのこと。回りの気付きが大切と思った。
その他	気軽に相談できるような組織ができたり、支援の仕組みが分かりやすくなったりすると良い。
	親がひとり親で、仕事が忙しかったり病気がちであつたりして、ほかに頼む大人もいないという環境が多いと思う。ヤングケアラー本人の支援も大切だが、親の支援が一番大切だと思う。
	ヤングケアラーと思われる子どもが存在するということは、家庭の状況が悪化していても支援できていないこと。まず家族を経済的、医療・介護的に支援できる体制が必要。
	愛情を伴うケアの場合もある。ここから先はヤングケアラーとみなすというような線引きを知りたい。
	「ヤングケアラー」と「ネグレクト」の違いが分かりづらい。
	「助けを求めるることは恥ずかしいことではない」と声掛けができればよいと思う。
	現在は核家族が増えて家族に何かがあつても面倒を見る人がいなく、近所には迷惑と思い声をかけづらいと思ってしまうのだろう。
	ヤングケアラー本人や家族は、その時々が精神的にも体力的にもいっぱいいっぱいで、発信できる余裕があるのかが気になり心配。
	最近はおせっかいおばさんがおらず(できなくなる世の中になってしまっている)、近所付き合いもなく、周りのことが見えなくなっているのが問題。
	新聞にヤングケアラーだった75歳の女性が夜間中学に入学し学んでいるという記事が掲載されてた。生涯に渡って影響のあることなのと思った。ヤングケアラーが注目されている時に支援体制を考え、1人で負担しなくとも大丈夫ということを伝えていくことが大切だと思う。